バイオリサイクル施設見学会・報告

カンポリサイクルプラザ株式会社　http://www.campo.co.jp

地球環境の保全には、循環型社会を築くことは欠かせません。消費し、捨て、焼却されるだけの存在だったごみ。そのようなごみに対する認識を、これからは変えなくてはいけない時代になってきています。

「燃やせばごみ、活かせばエネルギーに」をすでに実践し、生ごみをエネルギーへと活用しているカンポリサイクルプラザ（株）のバイオリサイクル施設（生ごみを燃やさず発酵させ、メタンガスを発生させて発電と発酵残渣の堆肥とする）は、循環型社会へ一歩進んだ場所の一つかもしれません。

❶カンポリサイクルプラザ（株）の施設はどこがすごいか

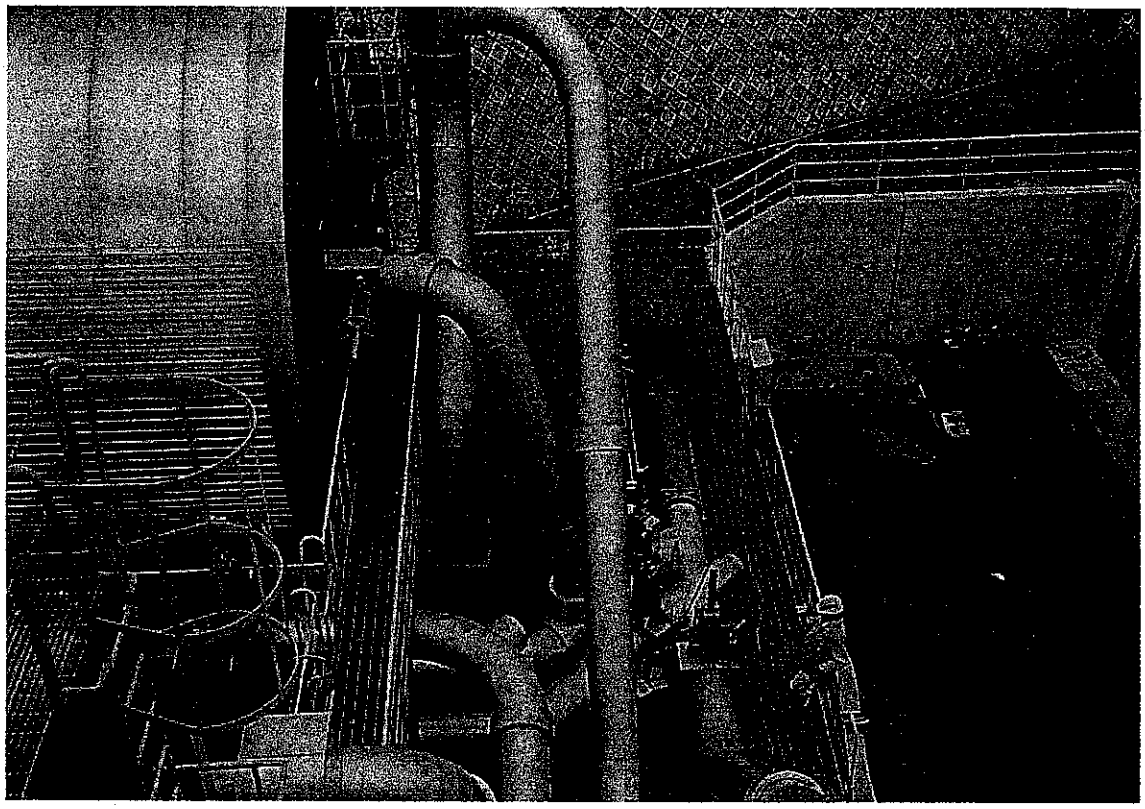
バイオリサイクル施設の処理方式（メタン発酵）は珍しい技術ではありません。昔は汲み取りされ、バキュームカーで運ばれたし、尿はこの方式で処理されていたし、今でも下水汚泥などの処理で使われています。この方式を固形物であるごみの処理にも使えるように技術開発し、初めて実際のごみ処理施設として使っているところがすごい！

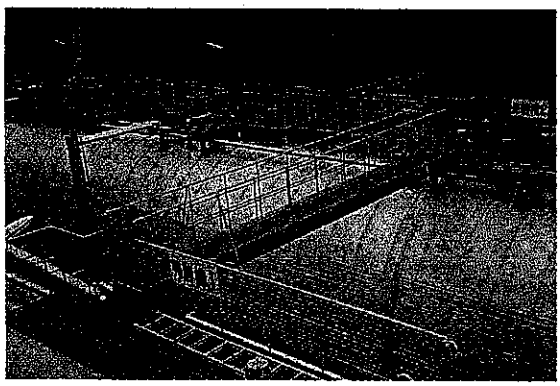
❶では、脱焼却のごみ処理が実現した？

確かにバイオ施設は焼却ではないが、残念ながらまだ焼却処理と縁が切れません。メタン発酵の処理後には、高濃度の汚水と汚泥が発生します。汚泥は肥料としてリサイクルすることも理論的には可能ですが、発生量に見合うだけの需要を確保することが実際にはできないでしょう。結局、汚泥を燃やしてさらに減量し、埋め立て処分せざるをえません。また、汚水も放流できるまで浄化処理をするにはコストがかかりすぎるため焼却炉に吹き込み、蒸発処理されていました。現状では、バイオ施設は隣にごみ焼却炉がある所でないと成り立たないでしょう。

❶それじゃ、手間をかけて最後は焼却してるってこと？

バイオ施設に4割のごみ、焼却に6割のごみをまわすのが理想の運転条件と説明を受けました。バイオ施設での処理以外に直接燃やすごみの方が多いのが現状です。それでも全量焼却する場合に比べて有害な排ガスは大幅に減らせています。そのことの意味は大きいと思います。





バイオマス施設・施設内風景